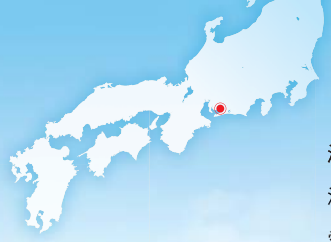


蒲郡市

G A M A G O R I



Landscape with Keeper キーパーのある風景

渥美半島と知多半島に囲われて
温暖な気候と海、山の幸に恵まれた風光明媚な観光地。
愛知県下最大の温泉郷でもあり、
随所に日本の文化を感じさせるスポットがある趣深い街。



クリスタルキーパーをかけたばかりのツヤと輝きMAXな車に乗って、海を眺めながら遠くまで見渡せる海岸沿いの道路をドライブするのは最高に心地いい。途中、万葉歌人の歌碑がある“万葉の小径”に立ち寄り、遊歩道から海を眺める。ドライブに戻り、樹齢推定1000年以上で愛知県下最大のクスの巨樹“蒲田の大クス”にエンジンを止める。葉のざわめきだけが聞こえてくる癒しの空間にたまたま、都会の喧噪を忘れさせてくれそうだ。



蒲郡市は愛知県にあり、本州のほぼ中心に位置する。2つの大きな渥美半島と知多半島に囲われた海辺の観光地で、三河湾国定公園に指定されている。

2つの大きな半島に囲まれた海辺の街。温暖な気候の特徴を活かしたフルーツ栽培がさかんで、特に「蒲郡みかん」が国内でも有名で、ハウスみかんは日本有数の出荷量を誇る。「みかん狩り」「いちご狩り」「メロン狩り」「ぶどう狩り」などで年間を通じ、多くの観光客が訪れる。また、味と水揚げ量ともに日本一を誇る三河湾の活アサリやちりめんじゃこをはじめ、海の幸にも恵まれ、新鮮な魚介類を味わえるのも魅力だ。

約47kmの海岸線沿いに、「三谷温泉」・蒲郡温泉・形原温泉・西浦温泉の4つの温泉地があり、愛知県最大の温泉観光地でもある。夏になると海水浴客で賑わい、蒲郡の沖合3kmに浮かぶ無人島「三河大島」でも7・8月は海水浴場が開設され、蒲郡や渥美半島を眺めながら遊泳を満喫できる。

市内には日本の文化を感じさせる神社や仏閣が多く、海から山にかけ変化に富んだ景勝は、万葉の歌人や近代の作家にも愛され、数多くの文人が好んで訪れている美しい土地だ。休日のドライブは蒲郡まで足を運んでみてはどうだろう。



蒲郡竹島

国の天然記念物にも指定されている蒲郡のシンボル。中央部には日本七弁天のひとつ「八百富神社」があり、神が宿る島といわれる。陸地と島を結ぶ「竹島橋」は、「縁結びの橋」。大切な人と手をつないで渡りたい。

蒲郡市観光協会 tel.0533-68-2526



三ヶ根山スカイライン

愛知県西尾市幅豆町から蒲郡市の形原温泉にいたる5.1kmの道路。蒲郡市街から太平洋、天気の良い日には名古屋市内まで見渡せる眺望は絶景で、夜景スポットとしても有名。

東三河有料道路事務所 tel.0532-31-2351



ラプーズヒル(恋人たちの丘)

蒲郡市内を一望できる絶景や三河湾に沈む美しい夕日を見ることが出来る。大切な人と永遠の愛を誓いながら鳴らす鐘や、「愛の鍵」スポットもあることから、特にカップルに人気の場所だ。

三谷温泉観光協会 tel.0533-68-4744



欧風料理 Ondina (オンディーナ)

昭和初期の病院建物を改装したレトロで趣のあるレストラン。新鮮な旬の魚介を使ったイタリアンを中心に、本格的なメニューが揃う。海を眺めながら食事を楽しむのも魅力。

愛知県蒲郡市港町1150 tel.0533-68-8918

Special Interview 阿川佐和子さんが語るクルマと聞か

り忘れてると「酒が煮えたぎってると思うがね」とジトツとイヤミを言われる。お客様がいらした時に、台所と食堂を往復して、常にお客様が心地よいセッティングをしなきゃいけないのは、私と母の仕事だったんですが、ある時、父に「お客様にお茶をくださいと言われる前に気づけ！今、この人は何を考えて、何を求めているのかに気づけ！優秀な海軍士官はみんなそうだった！」って言われたんです(笑)。だから父やお客様に言われる前に、こっちが察知して先に動くということをしはやってきたかもしれませんね。

何の肩書きも持って いない人に興味を持つこと

今は保身の時代、損得の時代といわれていますけど、この時代にあつて「聞く力」とは、どこにいても、自分の得になる人間にだけ関心を持つのではなくて、何の肩書きも持っていない人にどれだけ興味を持って、面白いと感じられるかだと最近思っています。例えば、自分が会社や組織にいたとして、一番大事なのは社長だとします。社長と外出したときに、ケガをしたり、迷ったりしないように守ることは社員として大事な役割で

す。でも社長の周りを取り巻く人が困っていたら、そっちが先でしょというところに気づけるか気づけないかってことと同じことなんじゃないかなと。私はその訓練ができていてわけではないけれど、気づける人間は会社を辞めてもきつと魅力的な人間になれるだろうと思えますけど、他の人を蹴散らして社長だけを守る人は、会社を辞めたら、お葬式には誰も来てくれないと思います(笑)。

自分が求めていた 100%幸せな 環境なんてない

仕事を始めて30年くらいになるのかな？でもこれまで、プロ意識なんて持ったことがないんです。お給金をもらっているからプロはプロなんですけど、「この仕事をずっと続けるのか」とか「この仕事をしたいのか、したくないのか」ということが分からないまま、今に至っています。インタビューの仕事だって好きか？って言われたら、あんまり好きじゃないの。だけど、人に必要とされているのなら続けようと思っています。最初のうちは「何でやりたくないことをやっているんだろう」と思いつながらやっついていて、失敗すれば「だっ

て最初からやりたかったってないもん！」って文句を言っていました。一緒に働く人に対しても気が合つ、合わないを気にしていたときがありました。でもどこに行っても、気が合う人だけの場所なんてないし、憧れの仕事に就いたとしても、嫌なこと、山ほどあるし、嫌な奴は山のようにいると思う。逆に大嫌いな仕事に就いたとしても、本当に尊敬できる人と出会うかもしれない。もしかすると幸せがいっぱい潜んでいるかもしれない。だから自分に与えられた場所で、縁があつて一緒に働く人たちと、一つの目的に向かっている仕事しようっていう意識が統一してればいいじゃないって思うようになった。

100%幸せな環境なんてないと思うんです。「自分らしさを見つけて、自分らしい場所を見つけなさい」とって、ないから、そんなの(笑)。周りに見つけてもらって初めてわかるんだから。

今日泣いても 10年後には笑い話になる

私はとりあえず何でも自分でやってみるタイプです。趣味とか、生活スタイルとか、生き

方とかいうのも、たくさん情報の中から拾って「私はこういうタイプだから、こういうことはやらない主義」って決めちゃう若い人たちが多いように思ってますけど、それじゃつまらないと思います。失敗を怖がっているのかもしれないけれども、失敗した方が絶対得だと思う。今日泣いても10年後には笑い話になるし、その時の教訓でやっちゃいけないことに気づけるし。失敗しないと最後にひどい目にあうから、失敗はちっちゃく、細かくしといたほうがいい(笑)。

って、えらそうに言いましたが、適当に聞き流してください(笑)。



阿川佐和子

(あがわ・さわこ)

東京都生まれ。作家・阿川弘之の長女として生まれる。テレビ番組でリポーターを務めたのを皮切りに、ニュースキャスター、インタビュアー、作家、タレントとして様々なジャンルで活躍。現在、キーパーコーティングのイメージキャラクターとしてCM出演中。